SIGNIS JAPAN　ニュースレター

タリタ・クム！　起きなさい！

発　行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）
代　表：千葉茂樹
発行所：〒107-0052　東京都港区赤坂8－12－42
聖パウロ女子修道会内
TEL 03－3479－3941　E-mail：info@signis-japan.org
http://signis-japan.org/

日本では、3月11日の東日本大震災以来、そして世界ではヨーロッパに端を発した経済危機が嵐のように吹きすさび、世界中が暗いムードになっています。こんなときだからこそ、大きな声で、明るく「クリスマスおめでとう！」と声かけをし、来年こそはいい年であるよう祈りながら、「タリタ・クム！　9号」をお届けします。

ニュース　2011年アジア会議報告

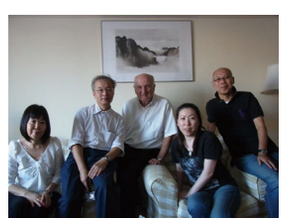
SIGNIS ASIAの参加者の皆さん

10月17日～21日、ネパール国カトマンズ近郊で今年のアジア会議が開催され、SIGNIS JAPANからは林さんと町田が参加しました。今年のテーマは「平和の文化の為のメディア：若い世代と映像を創る」。各国からの発表には大いに参考となるところがあり、と同時に日本での同様の展開は大きな困難・挑戦が伴うと直感しましたが、SNNの試験放送開始からわれわれも少しずつ活動を拡げられるとの希望も持ちました。

日本からは東日本大震災の報告とSIGNIS JAPANの活動報告・今後の課題･計画をプロジェクターで報告し、かつ「消費主義･メディア帝国主義･ネットいじめ」と題するパネルディスカッションにパネラーとして登壇しました。少しでも日本のことをアジアの仲間に分かってもらい、同時にわれわれもアジアのことを積極的に理解したいとの思いでした。言論の統制や検閲のある国が多いことに驚きます。密告制度のある国もあるのが現実。その中でネットの功罪はどの国もほとんど同じようです。

全体のまとめとしては､「メディア教育の推進､映画祭や映画賞の推進､シグニスの知名度向上への努力」。アジアの他の国々では多くの若い人が活動に参加していますが、日本は若い人の巻き込みが少なく、ここが一番の挑戦です。若者にも魅力のある活動にしたいものです。（町田）

香港カトリック日本人会訪問


香港カトリック日本人会の皆さんと

10月16日、アジア会議に向かう途上、香港での乗継ぎ時間の合間に香港カトリック日本人会の皆さまを訪問して楽しいひとときを過ごしました。皆さんお元気とても活動的な会だなとお見受けしました。たいへん元気づけられました。感謝。（町田）

マカオ映画フォーラム

マカオフィルムフォーラム参加報告

11月26日、27日の両日、シグニス･東アジア共同プロジェクト「マカオフィルムフォーラム」に泉さんと鵜飼が参加いたしました。26日午前中にマカオの市街地の映画館で「ホートン ふしぎな世界のダレダーレ」が上映され、子どもを中心とした参加者が集まりました。午後は会場をマカオ司教座ホールに変え、鵜飼と香港のドミニク氏により、堕胎反対に関する講演が行われました。翌27日には、「ジュノ」を上映し、午後からは、マカオのSr.メアリー・ジュリアナ・スーザン・デヴォイ、フランシスコLio（マカオの教区の社会的コミュニケーション･センターのアシスタント･ディレクター）、Fr.フラン･ピーターChong（マカオ管区の総代理）の講演が行われました。

講演内容ですが、日本からはドラマ「北の国から　巣立ち」、映画「ジーン・ワルツ」（2011年）を中心に現代日本の中絶事情について話しました。香港からはカトリックにおける中絶反対の考え方をBBCの映像を交え話されました。Sr.デヴォイは、マカオにおける中絶と養子の実態、フランシスコ氏は法的な問題、Fr.フラン司祭は、「ジュノ」についてを話されました。最後に、マカオのホセ・ライ司教から講演者に楯を授与され、2日間の日程を終了しました。日本に対して非常に活発な質問がなされ、関心の高さに驚かされる一幕もありました。（鵜飼恵里香）

第15回インターネットセミナーを開催します

2012年1月14日（土曜日）午後1時30分から、カトリック目黒教会で第15回インターネットセミナーを開催します。今回のテーマは、「震災･教会･インターネット―震災で問われた『福音（Good News）』とは何か」で熊谷雅也氏（イーピックス出版代表､大船渡印刷株式会社社長）をお迎えします。たくさんの皆様のご参加をお待ちしています。お申し込みは､氏名､メールアドレス、所属団体を明記の上、info@signis-japan.org　へ。

ミニミニ・メディアリテラシー　クリスマスツリーのオーナメント

聖堂に飾られた４本のローソクすべてに明かりが灯るのももうすぐ。いくつになってもクリスマスは心はずむ季節です。今日はクリスマスツリーに下げる飾り物の総称であるオーナメント（飾り物）について、“読み解いて”みましょう。

ツリーによく飾られている「金銀のボール」、あれはもともと本物のリンゴを吊るしていたことの名残りです。ホスチアに用いる丸いウェハースもよく用いられました。ドイツの農家では秋の終わりにとれたリンゴできれいに赤く色づいたものを大切に保存しておき、クリスマスが来るとツリーに下げました。リンゴの色鮮やかな赤は「愛と豊穣」を、その丸い形は「永遠と地上」を表しているとされます。杖のような形をしたお菓子「キャンデー・ケーン」。これは20世紀の初頭、アメリカで考案されました。イエス様の頭文字Jesusの「J」を模したもので、羊飼いの杖の意味とも言われます。白地に赤のストライプが４本入っていて、３本はイエス様がローマ兵に鞭で打たれたときの傷を、残りの１本は十字架上で流された御血を表します。四角や星型、人や動物の形をした「レープクーヘン」は香辛料や蜂蜜をふんだんに使って作るお菓子です。日持ちがするので紐を通してツリーに下げました。長持ちするところから、「長寿」を意味するとされています。昔は今と違っていつでも甘いお菓子が食べられたわけではないので、子どもたちは文字通り首を長くしてツリーの季節を待ちわびました。「ナッツ」は「神の計り知れぬ御心」を表し、クルミやヘーゼルナッツに紐をつけてツリーに飾りました。金色に塗られたナッツは外の殻と中とで色が違うことから、「人生には二面性がある」ことを示唆しているとも言われます。「バラ」。ピンクやブルー、黄色などの薄紙を重ねてバラの花を作り、ツリーに飾ります。ちなみにバラは「永遠の愛」を意味するとか。「キャンドル(ローソク)」は「世を照らす光」、キリストの表象です。光（神の子）が闇（この世）に輝き、その愛を極限まで与え尽くして消えていった（犠牲）ように、自らの体を燃やしながら光を放つキャンドルに、人々はイエスの生涯を重ねました。クリスマスツリーに下げられたさまざまな飾り物。そこに込められた真意を調べると、当時の人々の素朴だが生活に根付いた力強い信仰がうかがえます。

会員紹介　「これからの福音宣教はインターネットですよ！」

山田千鶴

大阪の御受難会（女子）の修道院の前で

私が洗礼を受けた頃は、Netscape Navigatorが開発され、日本でも女子パウロ会がウェブ・サイトを開設するなど、まさにインターネットの草創期でした。ただのテキストデータに <td> や
 などのタグを書き込むだけで、ブラウザーで見るときれいにレイアウトされている……そんな魔法のような仕組みに、私はすっかり魅了されていました。そして、主任司祭によく言ったものです。

「神父さん、これからの福音宣教はインターネットですよ！」

「メールって郵便屋さんが届けてくれるの？」

「ウェブ・サイトをやると、教会の情報が全部漏れてしまうのでは？」

周りのそんな声を説得しながら、なんとか教会公認のウェブ・サイトを立ち上げました。

そのうちに「インターネットを見て来ました」という方もちらほら現れ、その年のクリスマスはミサへの参加者も増えました。よかった、よかったと言っていたある日、ひとりの教会員が私を呼びとめました。

「だれでも来てください、来てくださいと言われてはこまる。知らない人ばかりになったら、私たちの信仰はどうやって守っていけばいいの？」

うーーーん……。

SIGNIS主催のインターネットセミナーも、もう15回を数えます。この間、小教区のウェブ・サイトについてみんなで検討してきました。私はこの歩みの中で、教会でのウェブ・サイトの開設・運営を考える、ということはその教会での福音宣教の方針を考えるということなのだ、という思いを強くしています。イエス様は聖書の中で「行って、福音をのべ伝えなさい」と言われました。私たちは、この言葉に、どのように応えているでしょうか。

もし、2000年前にインターネットがあったら、どうだっただろうか、と考えます。イエス様ならメールを送ってきた人、一人ひとりのところに出かけて行って話をしただろうか、パウロならブログだろうがfacebookだろうがTwitterだろうが、使えるものはなんでも使って「神様の愛ってすばらしいよー、みんな愛されてるよー」と言いまくっただろうか……そんな楽しい空想（妄想？）を膨らませながら、今日もコンピュータのキーボードをたたいています。（カトリック田園調布教会所属）